



生まれて初めて出会う本、絵本。この世に生まれてきた子どもを迎え入れ、これからの世界を教えてください。小さい時に好きだった本は何ですか。そこに出てくる生き物や乗り物や食べ物、それらを覚えていませんか。耐久高校ではよみかたりボランティア活動を行っていますが、そこで読まれる本を、小学生たちは本当に楽しんでます。その中には子どもたちが直面する様々な困難や乗り越えなければならない悲しみなども書かれています。短い文章に人生が詰まっているのです。最近では大人向けの絵本もたくさん出版されるようになりました。しばらくページをめくる、ということをしていない人には、とても気楽に手に取れる本です。その本が思いがけず心を打つこともよくあります。もう一度好きだった絵本を手に取り、子どものときにはほんやりとしか分からなかった大切なことを確認するのも、楽しい時間です。

本の話

体育科 細峪梓

おすすめの本…ながらく読書の記憶がありません…読む本といえば、子どもに寝る前に読む絵本ぐらいです。でも絵本って大人になって読むと楽しいんです。子どものころとはまた違った感動があります。切なかったり、優しい気持ちになれたり、考えさせられたり、と色々な感動ができて不思議な懐かしさもあります。子どもが見る絵本には「心の痛み」とか「人の思いやりや温かさ」がいっぱいつまっています。それに絵本には、「空を飛んだり」、「見た事もない綺麗なもの」とか「美味しそうなもの」など、どんなものとも出会う事ができるんです。そんな絵本の中から今回は最近読んでいた子どもたちお気に入りの1冊を紹介したいと思います。5歳の愛想のない娘に3歳の頃から思い



をよせてくれる男の子からの贈り物の絵本です。娘はこの4月に転園したのですが、お別れのときに自分が大好きな絵本だとプレゼントしてくれました。その日を思い出すとよけいに泣けます。

言葉の魔法『であえてほんとうによかった』細峪梓

『であえてほんとうによかった』作絵/宮西達也
きらわれもののティラノサウルスが、小さなスピノサウルスのこどもをパクリッと食べようとしたとき、大きな地震がグラグラグラ。地面がわれて、ふたりのいた場所は小さな島になって海へ流されてしまいました。スピノサウルスの子は、毎日へとへとになるまでティラノサウルスのために魚をとってあげました。そんなスピノサウルスの子に、ティラノサウルスもまた、なにかをしてあげたいと思うようになりました。スピノサウルスの子のために、赤い実をとってあげた時、「ありがとう」といわれたティラノサウルスは、心のなかが、あたたかくなるのを感じました。ふたりきりの時間、しだにお互いを思いあう気持ちが育てっていききましたが……。だれかが喜んでくれることが、自分も幸せにしてくれること、だれかを想うことがつながって、大きな愛になることを感じさせてくれるお話です。

「ありがとう」「すごい」「おもしろい」「かっこいい」「やさしい」とか、言葉にはこんな効力があるのかと感動します。優しい気持ちになれます。それに絵本は言葉だけじゃなく、具体的に色んなものを見せてくれるので、子どもたちは色々な想像をしていると思います。私が面白いなあと思って受け入れてもらえなかったりもします。私たち大人も、絵本を通して自分の心に向きあったり、新しい発見があったり癒されたり。そして、見失っていたキラキラしていた子どもの頃を思い出したり…？みなさんもたまには絵本どうですか。



*おまけの1冊

1日1話3分で読める

『頭のいい子を育てるお話し366』

絵本ではありませんが、かすかな期待を抱いて…読んでます。脳科学おばちゃん久保田カヨ子先生推薦の1冊です。毎日1話ずつ楽しめるおはなし集で、ジャンルは日本の昔話から、童話、神話、伝説までいろいろです。ひとつのお話を読むのにかかる時間はおよそ3分。366の物語が入っているということで、かなり分厚い本です。重さを計ってみると、約1600gでした。なかなかの重さで、持ち上げて読むには大変ですが、私も知らないお話もいっぱい楽しいですよ。効力は分かりませんが…